教育長賞

浅見　咲綾　（あさみ さや）　松枝小　3 年生

作品名：「しっぱいから学ぶこと」

図　書：しっぱいにかんぱい

わたしは「しっぱいにかんぱい」という本を読みました。この本をえらんだ理由は、題名の「しっぱいにかんぱい」とはどういう事なのだろうときょう味をもったからです。

このお話は小学六年生のかなという女の子が主人公です。かなはうん動会でクラスべつたいこうリレーに出ることになります。一年から六年までそれぞれのクラスからえらばれたせん手がバトンをつないで走ります。かなは一年生からずっとそのリレーのせん手にえらばれて走りつづけてきました。今年は六年一組でアンカーをつとめて一着のテープを切る。それがかなのねがいでした。五年生からバトンをうけとった時一組は三位でした。かなは三組をぬき二組もぬき、みごと一着でゴールしました。ところが、せいせき発表でかなは、テイク・オーバー・ゾーンから、はみだしたところで、バトンパスをしていたのでしっかくになってしまいます。かなは落ちこみごはんも食べられなくなってしまいました。そんな時、おじいちゃんから電話がきて親せきが集まり、かなが好きなハランずしを作るので手つだってほしいと言われます。そしてねていたかなは、おじいちゃんの家に行きみんなでハランずしを作りました。おじいちゃんがみんなのしっぱいした話を始めました。そしてみんなでかんぱいします。かなはみんなの話を聞いているうちに元気が出てきて自分のしっぱいした話をし始めます。おじいちゃんは「しっぱいを大事にして、大きくなってくれよ」と言い大きなかんぱいをしました。

この本を読んで思ったことは、おじいちゃんが言っている「しっぱいにかんぱい」という意味がわかった気がします。わたしもサッカーをやっていますが、サッカーは一っしゅんのはんだんが大事なスポーツです。プレーにしっ敗がないというし合はほとんどありません。し合にまけてしまう事もたくさんあります。でもわたしのりょう親はプレーでしっぱいしてしまっても、し合にまけてしまってもおこったり、しかったりしません。ぎゃくにし合にかっても百パーセントの力を出さずにだらけてプレーしているとしかられます。りょう親は、いつもしっぱいをしてもいいから全力をつくしなさいと言います。そして、しっぱいするのにはかならず原いんがあるのだと言います。しっぱいしないようにするには次はどうしたらいいのか考えてごらんと言われます。コーチや父に相談しながらわたしなりにいろいろ考え、次につなげられるようにれん習をします。しっぱいから学べる事はサッカーだけじゃなく八十メートル走でまけるのも友だちとけんかをするのもテストでわるい点をとるのにも、かならず原いんがあると思います。しっぱいした原いんをさがして次はどうしたらいいのかを考え、前の自分よりも大きくせい長することなのだと思います。わたしはこの本のおじいちゃんが言うようにしっぱいを大事にして大きくなりたいと思いました。